

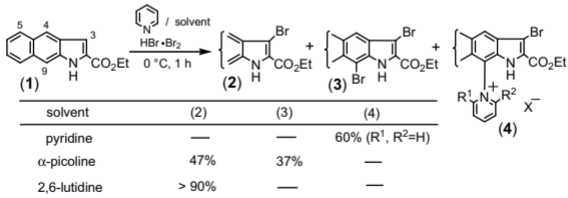
28P-am160

Benz[*f*]indole の反応性の検討 (Part II) — ブロム化における溶媒効果

○小田 由紀子¹, 関口 麻由美¹, 藤岡 秀輔¹, 渡辺 敏子¹, 村上 泰興²(¹国際医福大薬, ²千葉科学大薬)

【目的】 Benz[*f*]indole (1) のブロム化の際にpyridine環が導入される異常反応を見出していたので、その溶媒効果を検討し、さらにanthraceneとの比較も行う。

【実験・結果】 Benz[*f*]indole (1) に対し種々の溶媒を用いてpy-HBr-Br₂ (2当量) によるブロム化を行った。その結果pyridine中とは異なり、 α -picoline、2,6-lutidine中では異常生成物 (4) は得られずブロム化のみが進行した。得られたブロム体は溶媒によって3-モノブロム体 (2)、3,9-ジブロム体 (3) が得られることがわかった。Anthraceneに対して同様のブロム化を行うと、pyridine中で異常反応が進行し9-pyridinium体が得られることを確認した。



【考察】 α -Picoline、2,6-lutidine 中では異常反応が起らなかったことより、溶媒の立体効果が示唆された。また、anthracene でも pyridine 中で異常反応が進行したことより、benz[*f*]indole (1)との化学的類似性が示された。